

# 立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊 OB・OG会報

第17号 (2021年1月発行)

The Newsletter of the All Saints' Choir Alumni Association, Rikkyo University



コロナ禍での  
現役聖歌隊活動



# OB・OG会長挨拶

主の平和

新型コロナウイルスが引き続き猛威をふるっておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊  
OB・OG会長 長田 睦子

## 栄えある100周年行事

「令和」を迎えた2019年に、立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊は創立100周年を迎えました。

2019年度は、現役の皆さんが1年にわたって100周年を祝う特別なプログラムを展開し、OBOG会もこれを積極的に支援してきました。よろしければ、巻末記載の2019年度決算報告も参考にご覧ください。



2019年6月29日はレインボー・コンサート。100周年の演奏会のスタートに支援金を拠出しました。そして、レインボー・コンサート終了後OBOG会総会をチャペル会館ロビーで開催、多くのOBOGの参加を得ることができました。総会時は、手集金対応で総額13万円を上回る年会費・賛助金を頂戴いたしました。さらに2019年度はその後も各演奏会時に年会費を直接いただくなどして、前年より多い140名の皆様から年会費の入金がありました。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

2019年10月26日にはレクイエム奉唱会が開催されました。坂本日菜さんのレクイエムが奉唱されましたが、この曲には詩の朗読も付いています。この詩は聖歌隊OG青木瑞枝さんの作です。2019年11月23日には新座チャペルで聖歌隊創立100周年記念コンサートが開催されました。

2019年12月21日は池袋チャペルでLessons&Carolsがありました。

2020年1月18日には一連の創立100周年のしめくりとなる「100年の歩み、新たな未来」と題された聖歌フェスティバルが池袋チャペルで開催されました。金管アンサンブルと共に聖歌隊も会衆も声高らかに聖歌を捧げる記念礼拝です。OBOG会ではこの聖歌フェスティバル案内チラシ作成、配布を助成、器楽奏者調達の支援金を拠出しました。

これら聖歌隊主催の演奏会の他にもOBOGが深くかかわった行事等があります。

2019年8月26日には教会音楽研究所主催の「Sing It Yourselfフォーレのレクイエムを一緒に歌おう」が開催されました。指導のドーソン先生から一緒に歌おうとのお誘いを受け、メールマガジンでの周知、宛名ラベルの提供を行った結果、お久しぶりのOBOGも数多く参加されました。企画実施にあたってはOB加藤智宏さんらの活躍がありました。

2020年1月26日には「礼拝堂聖別100周年記念感謝礼拝」が池袋チャペルで執り行われました。この時の礼拝で奉唱したのは若手OBOGが主力の100周年記念聖歌隊でした。席上記念リーフレットも配布され、改めてチャペル100年の歴史に思いをはせました。

そして教会音楽研究所からは100周年記念の目玉である「立教学院諸聖徒礼拝堂100周年特集号」の紀要が編纂され、発行されました。

# OB・OG会長挨拶 / 聖歌隊長挨拶

## コロナ禍の2020年

一連の100周年行事が終わったすぐの頃は、新型コロナウイルス感染症は海外の出来事と思い込んでいました。ところが日本でもコロナは猛威を奮い、学生さんは卒業式・入学式等も開催されず授業もリモートを余儀なくされていました。この期間聖歌隊の姿をみかけたのはNHK朝ドラ「エール」ぐらいだったでしょうか。

コロナの感染予防対策上「一堂に会すること」、「声をあわせて歌うこと」ができません。聖歌隊は会衆に寄り添ってうたうことでお役に立つ存在だと信じ実践していましたが、今はそのような振る舞いはNGです。

現在、皆様が所属するそれぞれの教会でも礼拝をリモート配信する等できる限りの工夫を凝らしていることと思います。また、離れた距離の皆さんと一緒に画面を通じて集うなどリモートならではの良さもあるようにうかがっています。会報でも紹介するとおり、現役の皆さんもいろいろ工夫をされているようです。以前のように聖堂に歌声が響くのを夢見つつ、新しいことにも果敢にチャレンジしている現役の皆さんを応援してまいりたいと思います。

あけましておめでとうございます。

いかがお過ごしでしょうか？このような予期せぬ試練の時期は、私たちにとって困難なものです。1日も早くこの「ニュー・ノーマル」から馴染みのある「オールド・ノーマル」に戻りたいですね。

コロナ禍の中、立教大学チャペル聖歌隊がどのような活躍をしてきたかをお知らせしたいと思います。2019年は聖歌隊創立100周年ということで、3つの大きなイベントが行われました。最後のイベントは、1月にチャペルで開催された”Hymn Festival”でした。その一ヶ月前、横浜に停泊していたダイヤモンド・プリンセス号という大型客船で、聖歌隊有志のグループがクリスマスの音楽を歌いました。その同じ船がコロナウイルスに感染した乗客を乗せて、2020年の早い時期に横浜に戻ってくるとは誰も想像していなかったでしょう！

昨年の1月には世界はいつもと同じように見えたのですが、そのわずか1ヶ月も経たないうちにパンデミックの影響はどうなるのだろうか心配する時期が現れました。聖歌隊は千葉県岩井海岸で春の恒例合宿を計画していました。しかし、2月になると立教大学の春合宿はすべて中止になることが明らかになりました。結局、1月のHymn Festivalと翌日の主日礼拝以降、9月まで聖歌隊の学生たちと会うことはありませんでした。春学期中の活動は一切なかったです。聖歌隊の歴史上、戦時中はさておき、全ての活動が休止されたのは初めてのことだと思います。2019年度の卒業生を見送られず、2020年度の新入生の募集もできませんでした。2020年度の新入部員の来校も許されず、大学の全てにオンライン学習・授業への苦渋の移行を余儀なくされました。

## 立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊 聖歌隊長 Scott Shaw



# 聖歌隊長挨拶

2020年の後半には、コロナ禍の状況はある程度コントロールされたようで、立教大学はチャペルでの礼拝や聖歌隊のリハーサルを認めました。当然ながら、制限は厳しかったです。学生達は自宅でパソコンを使って授業を受けているため、リハーサルは週末にしかできない状況でした。聖歌隊のスタッフと一緒にリハーサル室とチャペルのバルコニーのスペースを測定し、最大20人のグループを安全に収容できると判断しました。ドアを開けたまま、隊員全員にマスク着用してもらい、座席の間隔を広くすることが本当に安全なのかどうかは誰にもわかりませんでした。9月6日の主日礼拝から活動を再開しました。リハーサルは礼拝後に行われ、それからは次の日曜日まで聖歌隊に会うことはありませんでした。立教の着任以来の17年間、ほぼ毎日のように聖歌隊と会っていたので、この「ニュー・ノーマル」は大変難しかったです。それでも、また一緒に音楽を造り、礼拝で歌うことができたのはとても嬉しかったです。

2020年度の聖歌隊人数は約60名です。そのうち約20名は9月から聖歌隊に戻り、クリスマスまで活動しました。奉唱会は中止になってしまいましたが、歌による夕の祈り(Choral Evensong)と毎年恒例の「9つの聖書日課とクリスマスキャロル」(Lessons and Carols)を録画し、オンラインで公開しました。ご自宅でいつでもご覧いただけます。Lessons and Carolsは、聖歌隊のYouTubeチャンネルでご覧いただけます。(YouTubeで「立教大学聖歌隊」を検索すれば、隊の公式アカウントがあります)。Choral Evensongはチャペルのウェブサイトで見ることができます。もしオンラインで聖歌隊の歌声を見れば、20人のグループが4つのパートに均等にわかれて、自信を持って歌っているのを聞くことができるでしょう。非常に困難な状況の中で彼らが成し遂げてきたことを、私は誇りに思います。さて、今後はどうなるのでしょうか？

まず、パンデミック最中のオンライン新歓活動は不可能だとわかってきました。秋に1年生3人が聖歌隊を見学しましたが、現時点1人も入隊していません。立教大学は2021年の夏まで通常の状態に戻ることはないと推測し、通常の新歓活動が出来ない可能性が高いと思われます。来年も新入隊員がほとんどいない、あるいは全くいないということになれば、私たちが知っているような聖歌隊は数年以内に消滅してしまう可能性が高いです。「私たちが知っているように」とは、週3回の礼拝と年に数回のコンサートに音楽を提供している50人以上の強力聖歌隊を意味しています。

パンデミックが終わった後の聖歌隊再建はどういう形になるのでしょうか？前例のない状況で、この事を考えながら何度も眠れない夜を過ごしてきました。短期的には、聖歌隊はメンバーの数に合わせてレパートリーを調整し、チャペルでの礼拝のために歌い続ける予定です。レインボーコンサートはオンラインでの開催もやむを得ないかもしれませんが、レクイエム奉唱会はライブで行いたいです。しかし、OB・OG会のしっかりとしたサポートがなければ、演奏は不可能です。今歌っているテノールとベースのほとんどが3月卒業するので、学生だけのグループで4部構成で歌うことは不可能な状況になります。来年のレクイエム奉唱会はデュリュフレ作曲のレクイエムを予定していますので、是非参加してください。

主日礼拝については、卒業生を迎えて、礼拝後の日曜日にリハーサルを行うハイブリッドな聖歌隊を作る必要があるかもしれません。長期的には、ボランティアの聖歌隊だけでは持続性がありません。海外の聖歌隊の多くは、チャペルの聖歌隊を維持するために奨学金制度や募集要項を設けていますが、立教ではどうでしょうか？立教の聖歌隊は、適切な募集と財政的支援があれば、今までのダメージから立ち直り、さらに高いレベルへと進むことができると信じます。今後、私は立教大学と話をしていくつもりですが、このような変化を実現するには、支援が得られたとしても、数年もかかるでしょう。その間、厳しい時代が続きますので、学生時代に歌っていた聖歌隊を心から愛している方々は、2021年、そしてその先も応援して下さる事を切に願います。

# 現役聖歌隊 活動報告

こんにちは、聖歌隊2020年度代表の鄧宇昊です。

今年の聖歌隊は合唱団としての制限が厳しく、感染予防のためにマスクを着け、満足に呼吸ができない中、頑張っ活動してきました。今回は、聖歌隊の一年間を振り返ってみたいと思います。

2020年度最初の行事である入学式は中止となり、チャペルガイダンスが行われないまま新歓の時期に突入しました。正直新歓はとても難しかったです。新入生と直接対面することができなかつたため、現役のスタッフたちと協力し、写真と文章で聖歌隊の一年間のイベントの様子をSNSで紹介しました。



聖歌集や黒ファイルを日光に当てて消毒を試みました

しかし、大学の判断によって春学期すべての活動が中止となり、授業さえオンラインとなる状況。定期的に全体ミーティングを行い、SNSを発信していたが、対面での練習はできませんでした。

秋学期に入る前の夏で、いよいよ少しずつ対面の練習が可能になり、主日奉仕を行うようになりました。2020年度、初めてチャペルで聖歌を歌ったときは本当に感動しました。



ソーシャルディスタンスを確保し、マスクを装着したうえで練習を行いました

# 現役聖歌隊 活動報告 / 2019年度決算報告

秋学期になると練習が可能となりましたが、練習時間が短くなり、マスク着用や感染防止に気を遣いながら練習に臨みました。隊員たちの努力によってクリスマスにも間に合い、Lessons and Carolsをyoutuber配信することができました。

Lessons and Carolsのビデオの編集やカメラの設置はすべてショウ先生に行っていたいただき、大変感謝しております。夕の礼拝の練習などもある中、レスキャロ動画を編集していただきました。本当にありがとうございました。

この一年間は大変でしたが、最後に記念となるLessons and Carolsの動画が完成し、クリスマスのイベントに参加することができました。振り返ると反省すべき点もありますが、置かれた状況でのベストを尽くせたと思っています。



## 2019年度決算報告

(2019年1月1日～2019年12月31日)

科目	金額	科目	金額
(収入の部)		(支出の部)	
繰越金	930,472	演奏会等援助金	215,000
年会費・賛助金	443,000	通信費	94,936
年会費 140名	280,000	印刷費	26,502
賛助金 50名	163,000	消耗品費	20,222
計	443,000	WEBサイト運営費	18,240
		雑費	9,720
		振込手数料	2,798
		小平霊園管理料	1,000
		小計	388,418
		繰越残高	985,054
合計	1,373,472	合計	1,373,472

## 年会費のお支払いはPayPalが便利です!

クレジットカードによる年会費のお支払いに対応しています。  
聖歌隊OB・OG会HPより手続きが可能です。



◀ QRコードで簡単アクセス!

立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊OB・OG会報第17号

【発行日】2021年1月23日

【発行元】立教学院諸聖徒礼拝堂聖歌隊OB・OG会事務局

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学ロイドホール5F スコット・ショウ研究室